

本会顧問本郷次雄先生の思い出

千葉菌類談話会会長 腰野 文男

菌類分類学特にハラタケ目研究の世界的権威者であり、本千葉菌類談話会の顧問をしていただき、永い間会員をご指導下さった本郷次雄先生(以下先生)が今年の4月にお亡くなりになりました。先生は1923年滋賀県のお生まれで日本菌学会の会長も勤められ、平成15年には南方熊楠賞も受賞され、保育社発行の今関六也・本郷次雄両博士の共著原色日本菌類図鑑はじめご著書も数多く、高齢とはいえまだまだ日本の菌学会のためにご活躍いただきたい方でした。千葉菌類談話会や千葉県立中央博物館主催のキノコの野外観察会や菌類講座でしかお目にかかっていない私には偉大な学者としての先生の業績やご生涯については勿論、その片鱗にも触れる事はできません。しかし、本会の講師としてキノコの野外観察会や菌類講座で熱心にご指導下さった時の温顔は忘れる事は出来ず、ここに生前の思い出を綴って見ました。

本郷先生と千葉菌類談話会

千葉菌類談話会が平成3年にスタートして第2回目のキノコの野外観察会が9月28日に房総風土記の丘で開かれました。前日の9月27日に菌類の分類学特にハラタケ目研究の世界的権威者である本郷次雄先生(以下先生)が講師としてお出で下さるといので、かねてながらその期待も大きく、先生のお出でになるのを今かとお待ちしておりました。先生に初めてお目にかかった時の印象はその当時の日記にもメモしてありましたが、飾り気の



県立中央博物館の生態園で 1991.9.30

ない誠実はお人柄でそれでいてどことなく親しみを持てる学者、というのが実感でした。

先生をお迎えした日の夜、有志による歓迎の懇親会が開かれました。先生は日本酒がお好きで実に美味しそうにお飲みになります。酔う程に会が楽しい雰囲気になるのも先生のお人柄のせいかも知れません。翌日の観察会や菌類講座をひかえて先生には随分ご迷惑だったと思いますがカラオケなどにおさそいしてしまったんです。私などもつい調子にのってお得意の歌を歌い始まったんですが、それを先生は楽しそうにお聞きくださっていました。マイクがまわって0さんが「先生一曲いかがですか」と伺いますと先生はその場の雰囲気に合わせて下さって昔の歌を実に正確にお歌い下さいました。先生のお歌い下さった『明治一代女』と楽しそうなお顔は未だに脳裏から離れません。

本郷先生とキノコの野外観察会・同定会

翌日9月28日の野外観察会の日はたしか悪天候だったと思いますが、森林総合研究所の服部力先生や林業試験場の根田仁先生も参加されて行われました。この時の野外観察会(以下観察会)が本郷先生をお迎えして行った最初の観察会でした。それから毎年1回はお出で下さり、会員をご指導下さいました。そのお陰で千葉菌類談話会の行うキノコの野外観察会の人気が高くなり設立当時約10名程であった会員数も1992年(平成4年)8月92名、1994年(平成6年)8月167名、2000年(平成12年)12月209名と増え続け、今では300名を超えております。特に本郷先生が直接ご指導下さる野外観察会は人気が高く参加者が多くて大盛況でした。1998年(平成10年)10月3日に泉自然公園で行われた第22回野外観察会は参加者が実に95名となり、観察会が終わってから野外での本郷先生の講話はあまりに参加者が多いのでハンドマイクなしには聞きとれない程でした。

先生はまた参加された女性からも結構人気があり、お昼時になると先生のために弁当の類を用意される女性も多く楽しく会食されておりました。それだけに気もつかわれていたように思います。確かに懇親会の時だったとおもいますが先生の隣の席があいていた



千葉菌類談話会の野外観察会・泉自然公園で
1993.10.23.



千葉菌類談話会の野外観察会・佐倉城址公園で
1997.10.5

ので、男性会員のAさんが「お隣よろしいですか」とお聞きしたところ「女性がいいですね」とさりげなくおっしゃったので思わず皆が大笑いをしたことがありました。

同定会

同定会場でも本郷先生の同定となると出席者の信頼度が違ってきます。先生がおわかりにならなければハラタケ目のキノコについては日本にはわかる人がおらず、名前のついていないキノコだという事がわかっているからでしょう。観察会が終ると同定会場で当日採取されたキノコは本郷先生の同定によって名前がつけられていきますが、不明な種が出て来ますと先生は「わかりませんなあ」とはっきりおっしゃいます。他の同定者だと時には何かお聞きしないとすまない会員もいますが、本郷先生の場合は先生のこの一言で申し合わせた様に不明種とメモをとっていました。“やはり本郷先生がお出でになると同定会場の雰囲気が違うなあ”というのが実感でした。

本郷先生の菌類講座

1989年県立中央博物館に勤めるようになってはからずも熊本キノコの会が発行した本郷次雄博士の講演要旨を読む機会に恵まれ、世界の菌類学者のたゆまない研究の累積を見



千葉菌類談話会の野外観察会・泉自然公園で

2001.10.12

た思いがしましたが、同時に熊本キノコの会の会員の皆様を大変うらやましく思った事を記憶しています。

1991年、県立中央博物館の菌類分類学講座で、待望久しかったこのハラタケ目研究の世界的な権威者である本郷次雄博士の講座を受講することが出来ました。講義は菌界の位置づけに始まり、スライドの上映を交えてハラタケ目の分類から菌根菌の事や地理的分布にまで及んで、午後は楽しい雰囲気の中で顕微鏡による実習が行われました。受講者は本郷博士の特徴のある声の名講義を一言も聞き漏らすまいと終始熱心に聞き入っていました。“キノコが菌類である以上、顕微鏡による孢子や組織の観察と試薬による反応を試みなければ、これからはキノコの同定はできなくなったなあ”というのが受講後における私の正直な感想といえましょう。この講座は顕微鏡や設備の関係から30名程度しか受講できません。そこで皆様のためビデオに収録はしてありましたが、かねがねこのままにしておくのは惜しいなあとおもっていました。ところが幸いというか第2回(1992)の講義を県立中央博物館の解説員をしていた小沼良子さんが勤務を終わってから毎日のようにコツコツとパソコンに入れてまとめておられたのです。その長い間の努力が実って、とうとう1冊の

本郷次雄博士の菌類講義録が完成し発行されることになりました。その努力には頭が下がる思いで敬服のほかありません……。1996年12月に千葉菌類談話会から発行された本郷次雄先生講義録の序文の一節から引用いたしました。本書は本郷先生が直接原稿に目を通されましたし、先生のあの独特な語り口まで活かして実によく記録されております。菌類講座の時の先生のお姿を思い浮かべながら今でもじっくりと読み返しております。

本郷先生の美人画

1957年今関六也・本郷次雄両博士の名著原色日本菌類図鑑が保育社から出版されました。その序文にあります、この図鑑のハラタケ目のキノコの図は大部分本郷先生が描かれたということですが、実によく観察されたすばらしい図ばかりです。この図鑑が発行になる前は川村清一博士の日本菌類図説が唯一のものでしたが、このキノコの図もすばらしく当時の教科書などにも載っていました。本郷先生の図はこれまたすばらしく神技に近いものと当時えらく感心した事を記憶しています。今の様に原色写真の発達していなかった頃は私もそうでしたがキノコを採取してきては水彩絵具などを使って写生していましたが中々うまくは描けませんでした。千葉菌類談話会が設立10周年を迎えるにあたって何か記念として後に残るような良いものはないか幹事会でいろいろの案を出し合って検討しました。その結果会報の10周年記念号の発行と記念のポストカードセットをつくらうと云う事になったのです。本郷先生も永年ご指導くださった千葉菌類談話会の10周年記念という事で大変ご協力くださりました。会報には「ハラタケ目の日本における調査状況」と「攪乱地のきのこ」についての原稿をポストカードには直筆のキノコの図を提供して下さる事になりました。その際いつぞや話題になったことのある門外不出の美人画の発行について、

ぜひ合わせてお願いしてみてもどうかという事になりました。本郷先生も千葉菌類談話会の10周年記念ということで快諾され、とうとう本郷先生の美人画が発行されるという前代未聞のことが実現することになりました。画のことは全く分からない私ですがポストカードになった本郷先生の美人画を見ると伏目がちなこの美人は誰なのか、この美人にはキノコと共通する様な美しさがあったのかなどいろいろな事が想像されて楽しく何かほっとした気持ちになります。千葉菌類談話会の10周年記念に本当にいいものをいただいたと思います。



本郷先生直筆の門外不出の美人画

きのこの細道

今私の書齋には本郷先生からいただいた『きのこの細道』(トンボ出版発行)が座右の書として机上にあって、先生を偲ぶよすがになっ

ております。今年(平成19年)のお正月には本郷先生からお年賀の八ガキをいただきましたのでお元気でご活躍の事とばかり思っていました。この4月になって先生の訃報に接し、ただただ驚くばかりでした。

平成15年3月に本会の講師としてご指導くださいました腹菌類の権威者吉見昭一先生がお亡くなりになり、今又顧問の本郷次雄先生を失った事は天命とはいえつらい悲しい事です。生前の思い出を綴って会員の皆様と共に心から先生のご冥福をお祈りいたします。



本郷先生のエッセイを収録する